

マレーシアで見聞広めて 酒田東高探究科1年 海外研修へ出発



マレーシアへの出発を前に抱負を述べる生徒代表の成澤さん(左)

県立酒田東高校(大山慎一校長)の探究科1年次による海外研修の出発式が26日、酒田市の庄内空港で行われ、教諭2人の引率で生徒32人がマレーシアに旅立った。生徒たちは31日まで5泊6日の日程で訪問、現地の工場などを視察して見聞を広げるほか、高校生・大学生と交流を深める。

文部科学省「スーパーイェンスハイスクール(SH)」の指定を受ける同校が、生徒たちからグローバル・科学的視点で課題解決を目指す思考力・コミュニケーション力を身に付けてもらうとともに、多様な人々との「協働」の在り方を学んでもらおうと2019年に初めて企画。コロナ禍でここ3年は中止となり、実施は4年ぶり。「県内他

高校に先駆けての実施となるため不安はあったが、保護者・生徒から強い要望があった」(大山校長)という。生徒たちはこれまでマレーシアとオンラインでつなぎ、2回の事前学習を行った。

庄内空港1階カウンタ前で行われた出発式で、大山校長は「コミュニケーションは全て英語になる。英語が使えるようになるには、まずは使わないといけない。たくさん使ってきて。楽しみながら無事に帰国することを願う」と激励。これを受け、初めての海外という生徒代表の成澤智陽さん(16)が「合言葉は『無事帰国』。これまでオンラインで会話していた人たちと、対面で交流できるのが楽しみです」と抱負を述べた。

一行は27日未明にマレーシアに到着。同国内の企業・研究所を視察しパーム油産業について理解を深めるほか、提携校「スルタン・アラーム・シャー」やプトラ大学を訪問し、現地の若者と交流を深める。

庄内日報 (令和5年3月28日 火曜日) より転載